

様式 8

「川づくり団体」部門

河川基金助成事業

糸貫川河川環境美化活動・ホタル育成活動

助成番号：2022-6322-014

ゆうすいの会

代表者 氏名 坂下 文雄

2022 年度

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2022--6322-014	糸貫川河川環境美化活動 ・ホタル育成活動	ゆうすいの会 会長 坂下 文雄 報告・申請者 林 明夫
活動の目的		
<p>北方町内の主な河川（糸貫川や天王川等）の美観（ゴミがない・雑草や雑木の除去・川底の土の撤去）を保持するとともに、生態系の均衡のとれた良好な水辺環境を創出して、自生する環境のもと「はたるが飛び交う町づくり」の実現を目指している。そのために、多くの住民（小学生から大人まで）が川の状況を認知し、親しみ、豊かな自然として守り育てるようになるための活動を展開する。</p>		
事業テーマ	糸貫川河川環境美化活動・ホタル育成活動	
助成事業の要旨	<p>【実施内容】 「・」は河川環境美化活動 下線「○」は総会や例会 人数は参加数 総会は、北方町ホリモク生涯学習センターきらり2階研修室で実施 毎月の役員例会は、北方町コミュニティーセンター2階会議室で開催</p> <p>4月10日・午前9時から清流平和公園及びその西を流れる糸貫川の美化活動（ごみひろい・草刈り等）22人（グループに分かれて活動）</p> <p><u>4月15日</u>○19時から21時まで4月役員例会 10人</p> <p>5月 8日・午前9時から間中島公園東の糸貫川の美化活動 24人</p> <p><u>5月20日</u>○19時から21時まで4月役員例会 12人 総会資料および講演会、参加者等の確認</p> <p><u>5月28日</u>○午前10時から12時まで 総会（58人） ＊令和4年度役員、年間活動計画と予算の承認 ＊河川財団に提出した令和3年度活動報告と決算報 令和4年度の活動計画と予算 ＊活動計画の概要</p> <p>① 高校生の会員数の増加 卒業会員5人 ② ホタル観賞会中止・川と親しむ会（それいけ糸貫川・それいけ天王川）中止 ③ 月1回の例会（翌月の計画と行事等の打ち合わせ・第3金曜19時～21時） ④ 月1回の河川美化（ごみ拾いや除草、環境調査、ホタルを中心に生態調査等） （第2日曜9時～11時 糸貫川や天王川） ⑤ 河川財団等の研修会参加 総会における講演会（日本人と川） ⑥ 岐阜農林高校と明治製菓と協力して行うカワニナの育成</p> <p>6月12日・9時から清流平和公園西の糸貫川の美化活動（ごみひろい・草刈り等）</p> <p><u>6月17日</u>○19時から21時まで6月役員例会 8名 カワニナの育成（岐阜農林・明治製菓）について、ホタル観賞会の中止について</p> <p>7月10日・9時から11時まで間中島公園東を流れる糸貫川の美化活動（ごみひろい・草刈り等）・生態調査 26人</p> <p><u>7月15日</u>○19時から21時まで7月役員例会 13人 それいけ糸貫川の計画中止・明治製菓の水路訪問・水環境視察の期日について・8月美化活動中止<コロナ禍・猛暑></p> <p><u>8月19日</u>○19時から21時まで8月役員例会 10人 明治製菓の水路、糸貫川のカワニナの採取について</p>	

9月11日・9時から11時まで、清流平和公園西の糸貫川の美化活動 生態調査 28人

9月16日○19時から21時まで9月役員例会 9人

11月のふれあい祭り参加について 生態調査の報告

10月 9日・9時から11時まで、アピタ東の糸貫川の美化活動 24人

10月21日○19時から21時まで10月役員例会 11人

カワニナやホタル幼虫の育成について (岐阜農林高校、明治製菓)

11月13日・清流平和公園西の糸貫川美化活動 5人

*ふれあい祭りに参加し、河川美化活動やカワニナ・ホタルの幼虫育成・河川の生態調査の様子を紹介 24人

11月18日○19時から21時まで11月役員例会 12人

ふれあい祭りの参加・明治製菓の水路における育成の困難さについて

12月11日・9時から清流平和公園西の糸貫川美化 36人

12月16日○19時から21時まで12月役員例会 11人

予算状況、河川財団研修の参加について

*岐阜農林生が中心になって「ゆうすいの会」として、北方中学校で河川環境について授業支援(12月13日)

1月 8日・9時からアピタ東の糸貫川美化 31人

1月20日○19時から21時まで12月役員例会 12人

・河川財団研修について

○「ゆうすいの会」として岐阜農林高校生が、北方南小学校と北方西小学校の4年児童に、河川生態調査の紹介

2月 4日○河川財団研修(岐阜農林生・卒業生・教師5名)

2月12日・9時から間中島公園東の糸貫川美化 30人

2月21日○19時から21時まで1月役員例会(河川財団への報告、河川財団研修について)

2月28日○河川財団研修(川づくり実践発表・林・広瀬・大野・馬場・市橋)

3月12日・9時から清流平和公園西の糸貫川美化 31人

3月18日○19時から21時まで3月役員例会(本年度の反省 次年度役員について)

〔成果〕

・コロナ禍のため、ホタル育成に関わる先進地区研修は、高校生がまとまって移動するという点から避けざるを得ず、また、受け入れ先も断られるなど、実施できなかった。その分、2月4日、28日の2回の河川財団研修会(成果発表会)に、高校生3名、若い現役社会人会員2名、役員4名が参加して、優れた実践を具体的に学び、例会で紹介することができた。

現在進めているカワニナやホタルの幼虫育成のハウツーも学ぶことができ、実際に生かしている。(水温・餌・水流・土の環境等)

・ホタルやカワニナの幼虫育成をすすめたところ、研究調査という視点もあって、多くの高校生が「ゆうすいの会」(50名を超える高校生会員)に加入した。また、小・中学生に高校生が河川環境や水生生物の紹介を行う機会があり、意欲的に参加する高校生の姿が目立った。こうした取り組みが、今後の高校生会員獲得を大きく進めると考える。役員が小学生に「ゆうすいの会」の活動を紹介する機会も2回あり、将来の会員募集になればと期待している。

・毎月1回の河川美化活動(8月はコロナ急増で中止)が充実し、300人を超す参加を得た。収集したごみ袋は250袋、回収した自転車やタイヤは10個ほどに上る。こうしたものを北方町ふれあい祭で紹介し、河川美化を訴えた。カワニナやホタルの幼虫育成(岐阜農林高校ビオトープや水槽、明治製菓の水路や水槽における育成)に関する報告書を高校生がまとめた。

・ふれあい祭のブースには500人以上が来訪し、大人166人、小学生173人からアンケート調査を得た。調査前のゆうすいの会の認知度はアンケートで15%ほどであり、こうした出店活動により、幅広く活動を紹介できたことは大きな成果と言える。北方町でホタルを見たことがあるがアンケ

ート参加者で約45%、コロナ禍でホタル観賞会が開催できない時期が3年続いたことを考えると、ホタルの育成活動・河川環境保全活動を紹介できたことは、一般町民の認識を変えることに有用であった。

「今後の展望」

① 河川環境保護と改善

河川のホタル育成環境の確保するために、カワニナやホタルの幼虫の育成活動（よりよいホタル環境の理解）に岐阜農林高校で取り組んでいる。明治製菓でも工場内の水路や水槽を用いて育成活動を進めている。ホタルが生息する糸貫川の環境づくりに生きて働く資料を提供するものとして注目し継続したい。糸貫川の環境保全・改善を進めて後に、ビオトープの再生、幼虫の放流が出きたらと考えている。

② 自然保護の啓発

HP（大学生や高校生による作成）作成、ふれあい祭におけるブースでの活動紹介を経て、多くの町民の知るところとなった。小・中学校における「ゆうすいの会」の活動紹介（糸貫川の河川環境の保全・ホタルの幼虫の育成・河川美化活動等）が「北方科」としてカリキュラムに位置付くことになったのも大きな成果である。こうした活動を充実し、ゆうすいの会支援者拡大に取り組みたい。

会員募集では、高校生会員が50名、若い役員が4名加わったことで、ふれあい祭りへの参加、カワニナやホタルの幼虫育成事業など、新しい活動が生まれた。これを継続発展させ、さらなる拡大を目指したい。

③ 支援者の拡大

多くの企業、町民や行政による支援体制の確立を図り、会費制で活動を展開できるよう、息の長い活動を目指したい。

④ その他の将来の展望

- ・会員に青年層を加え、継続的に河川環境の改善や生態調査、ホタル育成活動を町民、企業人、小中学生や高校生と共に一層充実する。
- ・小中学生が親子と参加する「川と親しむ会」を岐阜農林高校と連携して充実・継続する。
- ・近隣地区の環境保護団体と連携して共に活動したり近隣の小中学校に働きかけたり（活動への参加、絵や標語、研究作品等の募集）して、啓発事業の充実を図っていききたい。

様式 10-1

2.川づくり団体部門

[自己評価シート]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2022-6322-014	糸貫川河川環境美化活動・ホタル育成活動	ゆうすいの会 会長 坂下文雄 報告・申請者 林 明夫

【計画の妥当性】

5年目は、以下の①②③を計画し、「1」～「4」の具体的な目標を立てた。

- ① ホタルの育成を目指す飼育活動（岐阜農林高校・明治製菓）の展開
- ② 河川環境の保全、水生生物の調査・保護を目指す高校生の新規加入
- ③ ホタルが自生できる河川環境の維持・改善

～コロナ禍で、ホタル鑑賞会、親子による川に親しむ会の中止～

コロナ禍が少しでも収まることを願い、具体的には次の4点を計画した。

- 1 糸貫川のホタル育成という課題に向け、同じ水系のカワニナやホタルの幼虫を捕獲し、その育成活動を、岐阜農林高校ビオトープ、明治製菓水路、水槽で行う。
- 2 水生生物調査や水質調査を行い、糸貫川の実態を把握する。水質等の保安全管理に関する問題の発見と指摘、改善に向けた方策を高校生が中心になって提案する。
- 3 月1回の河川美化活動を展開して環境保全に努め。高校生会員の拡大を図る。
- 4 ゆうすいの会の活動を広報や町の行事等で広く紹介し、河川環境保護を訴える。

○ 最終年度として計画は、おおむね妥当と考える。

「1」ではホタル育成に関わる昨年度の研修会<松本ホタル学会・藤本静雄氏（信州大学特任教授）>を基に、糸貫川水系のカワニナ、ホタルの幼虫を採集し、飼育を試みている。岐阜農林高校のビオトープでは、高校生と大人会員がそれぞれに「かご」を工夫し、作ってカワニナの育成を進めている。

また、ホタルの幼虫の育成は、岐阜農林高校の化学クラブが水槽で行っている。温度管理や水、えさの管理など、すこしでも多くの幼虫が生きるよう研究をしながら、実験的な飼育活動に取り組んでいる。カワニナもホタルも順調に育っている。

一方、明治製菓北方工場内の排水路を活用して、カワニナの育成に取り組んでいる。水に問題なく、藻も生えている排水路である。しかし水流が急すぎるようで、同じ水を使った水槽ではカワニナも順調に育つが。水路ではうまくいかない現在である。水槽による育成や池における育成に取り組んでいて、順調に育っている。

自分たちで河川環境をつくりだす一歩を歩み出せたので、おおむね妥当と考える。

「2」については水質調査に問題はなく、水生生物の多様性も変化がない。「3」における「ごみ」の収集や河岸樹木の保護など、地道な活動が実を結んでいる。1～2か月後の美化活動では、多くのごみが出る。2月は20袋（800ミリ×650ミリの袋）ほど集まり、3袋は金属や瓶などである。

偶然のことならともかく、意図的なごみ投棄は何としても許せない。上流からのものが多いと思われ、次年度は他地域との連携活動を何としても再開（コロナ禍でここ数年中止）したい。こうした意見は高校生からも聞かれ、参加人数は徐々に増加（50名）してきている。何はともあれ、河川美化の具体的な様子と収集物を紹介できたこと、活動者数が増加したことなど、河川環境を保全する活動が前進しており、おおむね妥当と考える。

「4」については、北方町ふれあい広場で2つのテントという広さで、ホタルやカワニナ、その他の水生生物、河川環境の現状、ゆうすいの会の活動を紹介した。また、河川環境に関する意識調査を行い、ホタルの飛び交う川づくり町づくりに関する啓発活動を展開した。

自分たちで自分たちの河川環境をよくしていこうとする呼びかけが300名を超える町民に直接できたことなど、おおむね妥当と考える。

【当初目標の達成度】

- 1 糸貫川のホタル育成という課題に向け、同じ水系のカワニナやホタルの幼虫を捕獲し、その育成活動を、岐阜農林高校ビオトープ、明治製菓水路、水槽で行う。

岐阜農林高校、明治製菓岐阜工場の積極的な支援を得られたこと、高校生や明治製菓職員、町民大人会員のそれぞれが、役割を果たしたこと（それぞれが糸貫川流域のカワニナやホタルの採集、それぞれの場で飼育、情報交流、手伝い合いなど）で実現した。現在、順調に育っていることを考えると、当初の目標の80%は達成できたと考える。

今後、河川にどのような環境が求められるか、育成放流活動をどのようにしていくかなど、具体的な実践と研究に取り組んでいきたい。

2 水生生物調査や水質調査を行い、糸貫川の実態を把握する。水質等の保安全管理に関する問題の発見と指摘、改善に向けた方策を高校生が中心になって提案する。

高校生が岐阜大学で、糸貫川の水質調査や水生生物調査の成果と課題を発表したこと、高校生や町民大会員が小・中学生に「ゆうすいの会」の活動内容を「北方科」として紹介したことなどが該当する。水生生物の数の変化もなく、良好な水質が保たれていることが明らかになった。一方で、川底に「泥」の堆積が目立つようになり、カワニナ生息の環境としては好ましくないことも明らかになった。水害防止に関わる木々の伐採、街灯の増設などとともに、今後の課題であることが明らかになったことは、大きな成果（90%）である。

3 月1回の河川美化活動を展開して環境保全に努め。高校生会員の拡大を図る。

ゆうすいの会の活動がボランティアとして評価されていること、水生生物の観察、河川環境の保全、ゆうすいの活動の小中学生や町民への紹介などが魅力的であること、クラブや学習とのかわりが深いことなどから、高校生会員が増加している。高校生50名、町民大人23名（ほかに大学生2名、社会人1名）で、今後が楽しみな成果であると考えられる。

4 ゆうすいの会の活動を広報や町の行事等で広く紹介し、河川環境保護を訴える。

今年度、北方町ふれあい祭りに参加を申請し、許可を得たことで、町民に直接、ゆうすいの会の活動を紹介することができた。その際、町民にアンケートを実施して、河川美化や水生生物の保全、ホタル発生の現状と育成活動の重要性、明治製菓や岐阜農林学校における幼虫の育成支援を訴えた。明治製菓からは、アンケート提出に対するお菓子の配布もあり、300名を超す回答を得た。また、テントに集まる町民（大人・小中学生）は終日、絶えることはなかった。広く具体的に紹介できた成果は100%、満足できたものであった。

〔助成事業の効果〕

○効果として特に次のことが挙げられる。

- A 月1度の河川美化活動が地域の方に認知されつつある。HP運用、ふれあい祭への参加も大きな効果をもたらした。
- B 糸貫川で行っている「川に親しむ会」の実施を望む親子の声が多く寄せられたが、今年度も3年連続の中止となり、残念がる多くの声が寄せられた。川に親しむ町民の声の増加をひしひしと感じ、町民の期待の大きさを実感している。
- C 高校生の会員が増加して50名、さらに社会人が3名加わり、大学生3名と共に河川美化活動や生態調査に参加した。これを機に、さらに拡大がすすむとよい。ホタルやカワニナの育成事業（地域の幼虫を採取）が、高校や企業で始めることができ、順調に育っている。
- D コロナ禍が治まれば、先進地域研修や生態調査など、町民参加型の研修を充実して行きたいという会員の声が上がリ、河川財団で9人が研修できたことは次年度の活動計画づくりに有意義であった。環境保全の意味やその方法など、総会時の講演会（「川の歴史と文化」人数制限の中58名参加）は大成功であった。自然と生命、生きることと自然環境、行政との連携や取り組む会員の姿勢など、様々な点から示唆を受けることができた。
- E 課題としてきた小・中学校への働きかけ（美化活動や調査活動への参加、活動の理解）が「ゆうすいの会」役員や高校生の授業参加をとおして大きく進んだ。今後、ポスターや研究作品の募集、ホタル育成に特化した活動への参加をすすめたい。

〔河川管理者等との連携状況〕

- 1 清流の国ぎふづくり糸貫川水環境対策検討会のメンバーとして、年1回（2月）その会合に出席し、河川美化運動の啓発について意見交流をしたり、他地域との連携を提示したりしてきた。一昨年度から文書による情報交流にとどまり、検討会は開かれていない。
- 2 岐阜県が進めている県リバーサポーター事業に参加し、北方清流平和公園と隣接の糸貫川美化を展開している。年間1～2回、河川現場で助言を受けている。また、県土木課の助言と参加のもと、北方町都市環境課とも連携して、清流平和公園の糸貫川の土砂の撤去を行ったり河川環境保全についての現場の課題を提示したりしている。
- 3 北方町都市環境課と連携して河川美化や諸行事を展開するとともに、河川で収集したごみや草、木材（伐採）の始末をお願いしている。役員例会は夜間であるが、職員1～2名がボランティアとして参加（毎回必ずではないが）されている。
- 4 県立岐阜農林高校の環境科学科や自然環境クラブと連携して糸貫川や天王川の環境美化活動（月1回）や生態調査（河川美化に続いて開催）を実施し、川を守り川に親しむ活動を展開してきた。また、岐阜農林高等学校の支援のもと、ホテルやカワニナの育成事業、河川環境の調査活動に取り組んでいる。

〔キーワード〕

月一度の河川美化活動に多くの高校生が参加

カワニナやホテルの育成（明治製菓・岐阜農林高校）

指導計画に基づく「北方科」授業参加（小中学校）

河川の水質調査

先進的な事例研修（河川財団研修）

様式 1 1 — 1

2.川づくり団体部門

[自己評価シート]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2022-6322-014	糸貫川河川環境美化活動・ホタル育成活動	ゆうすいの会 会長 坂下 文雄 報告・申請者 林 明夫

【計画の妥当性】

5年目は、以下の①②③④を計画し、「1」～「4」の具体的な目標を立てた。

- ④ 自生するホタルの育成を目指した研修（河川財団の成果発表会や研修会）
- ⑤ 生態調査、ホタルやカワニナの幼虫育成活動を通じた高校生の新規会員の募集
- ⑥ ホタルが自生できる河川環境の維持改善
- ⑦ 河川美化やホタル育成活動の具体的な紹介を通じた啓発活動

コロナ禍が収まることを願い、具体的には次の4点を計画した。

- 1 河川環境保全の先進地区を視察研修するとともに、糸貫川のホタル育成という課題を解決するための河川財団の成果発表会に参加する。
- 2 岐阜農林高校のビオトープや水槽、明治製菓の水路や水槽でホタルやカワニナの育成活動を展開し、参加する高校生を募集する。また、小・中学生に河川美化や水生生物調査、ホタル育成活動を紹介する高校生を募集する。
- 3 糸貫川の3か所（清流平和公園の西や間中島公園の東、アピタの東）において、月1回の河川美化活動を展開する。また、「2」に示したカワニナやホタルの幼虫の育成活動を展開し、住みよい条件や環境を調査する。
- 4 北方町広報やHP、北方町主催のふれあい祭で、ゆうすいの会の活動（河川美化活動・ホタルやカワニナの育成活動・川の生態調査と生き物の紹介）を紹介し、町民に対して河川環境の保全やホタル育成に関する啓発活動を行う。

○ 計画については、コロナ禍のもと、次のような大きな成果を上げたことを考えると、最終年度として計画は、おおむね妥当と考える。

・「1」ではホタル育成に関わる昨年度の研修会<松本ホタル学会・藤本静雄氏（信州大学特任教授）>を基に、糸貫川水系のカワニナ、ホタルの幼虫を採集し、飼育を試みている。岐阜農林高校のビオトープでは、高校生と大人会員がそれぞれに「かご」を工夫し、作ってカワニナの育成を進めている。

また、ホタルの幼虫の育成は、岐阜農林高校の化学クラブが水槽で行っている。温度管理や水、えさの管理など、すこしでも多くの幼虫が生きよう研究をしながら、実験的な飼育活動に取り組んでいる。カワニナもホタルも順調に育っている。

一方、明治製菓北方工場内の排水路を活用して、カワニナの育成に取り組んでいる。水に問題なく、藻も生えている排水路である。しかし水流が急すぎるようで、同じ水を使った水槽ではカワニナも順調に育つが、水路ではうまくいかない現在である。水槽による育成や池における育成に取り組んでいて、順調に育っている。

○ 自分たちで河川環境をつくりだす一歩を歩み出せたので、おおむね妥当と考える。

・「2」については、岐阜農林高校のビオトープや水槽、明治製菓の水路や水槽でホタルやカワニナの育成活動を展開する中で、参加する高校生が増えた。小・中学生に河川美化や水生生物調査やホタル育成活動を意欲的に紹介する高校生が目立ち、加入を後押しした。

○ 主体的に参加する高校生や若い社会人（4名）が役員として活躍するなど、おおむね妥当と考える。

・「3」における「ごみ」の収集や河岸樹木の保護など、地道な活動が実を結んでいる。2月、3月は各20袋（800ミリ×650ミリの袋）ほど集まり、3袋は金属や瓶などである。

偶然のことならともかく、意図的なごみ投棄は何としても許せない。上流からのものが多いと思われ、次年度は他地域との連携活動を何としても再開（コロナ禍でここ数年中止）したい。こうした意見は高校生からも聞かれ、参加人数は徐々に増加（50名）してきている。何はともあれ、河川美化の具体的な様子と収集物を紹介できたこと、活動者数が増加したことなど、河川環境を保全する活動が前進しており、おおむね妥当と考える。

「4」については、北方町ふれあい広場で2つのテントという広さで、ホタルやカワニナ、その他の水生生物、河川環境の現状、ゆうすいの会の活動を紹介した。また、河川環境に関する意識調査を行い、ホタルの飛び交う川づくり町づくりに関する啓発活動を展開した。

自分たちで自分たちの河川環境をよくしていこうとする呼びかけが500名を超える町民に直接できたことなど、おおむね妥当と考える。

助
成
事
業
実
施
成
果
の
自
己
評
価

[当初目標の達成度]

「1」達成度は80%である。

コロナ禍のため、ホタル育成に関わる先進地区研修は、高校生がまとまって移動するという点から避けざるを得ず、また、受け入れ先も断られるなど、実施できなかった。その分、2月4日、28日の2回の河川財団研修会（成果発表会）に、高校生3名、若い現役社会人会員2名、役員4名が参加して、優れた実践を具体的に学び、例会で紹介することができた。その報告を次年度の活動計画づくりに生かしていきたい。

また、現在進めているカワニナやホタルの幼虫育成のハウツーも学ぶことができ、実際に生かしている。（水温・餌・水流・土の環境等）

「2」高校生の加入達成度は100%である。

昨年、松本ホタル学会・藤本静雄氏（信州大学特任教授）の講演を岐阜農林高校で行い、高校生が20名程参加し、環境保全の観点で多くの質問をしたことは、河川環境の改善や保全に対する熱意の表れで、藤山氏からも褒めていただいた。それをきっかけに、今年度、ホタルやカワニナの幼虫育成をすすめたところ、研究調査という視点もあって、多くの高校生が「ゆうすいの会」（50名を超える高校生会員）に加入した。

また、「北方科」という授業で、小・中学生に高校生が河川環境や水生生物の紹介を行う機会があり、意欲的に参加する高校生の姿が目立った。こうした取り組みが、今後の高校生会員獲得を大きく進めると考える。役員が小学生に「ゆうすいの会」の活動を紹介する機会も2回あり、こうした機会が毎年続くので将来の会員募集になればと期待している。

「3」達成度は8月に欠けたことや河川環境の改善に欠けた点を考え、90%である。

毎月1回の河川美化活動（8月はコロナ急増で中止）が充実し、別紙の写真報告の様に行い、300人を超す参加を得た。収集したごみ袋は250袋、回収した自転車やタイヤは10個ほどに上る。こうしたものを北方町ふれあい祭で紹介し、河川美化を訴えた。なお、カワニナやホタルの幼虫の育成は、「4」ともかかわる報告書に高校生がまとめた。

一方で、河川環境を具体的に改善する活動（川底の改修・河岸の樹木育成・街灯の消灯等）に取り組むことに欠けたこともあり、今後、この分野に関する活動を重視したい。

「4」ふれあい祭などを通じた啓発事業が1年目という点で、達成度は95%である。

ふれあい祭のブースには500人以上が来訪し、大人166人、小学生173人からアンケート調査を得た。調査前のゆうすいの会の認知度はアンケートで15%ほどであり、こうした出店活動により、幅広く活動を紹介できたことは大きな成果と言える。また、北方町でホタルを見たことがあるがアンケート参加者で約45%、コロナ禍でホタル観賞会が開催できない時期が3年続いたことを考えると、ホタルの育成活動・河川環境保全活動を紹介できたことは、一般市民の認識を変えることに有用であった。

[助成事業の効果]

○効果として特に次のことが挙げられる。

A 月1度の河川美化活動が地域の方に認知されつつある。HP運用、ふれあい祭への参加も大きな効果をもたらした。

B 糸貫川で行っている「川に親しむ会」の実施を望む親子の声が多く寄せられたが、今年度も3年連続の中止となり、残念がる多くの声寄せられた。川に親しむ町民の声の増加をひしひしと感じ、町民の期待の大きさを実感している。

C 高校生の会員が増加して50名、さらに社会人が3名加わり、大学生3名と共に河川美化活動や生態調査に参加した。これを機に、さらに拡大がすすむとよい。ホタルやカワニナの育成事業（地域の幼虫を採取）が、高校や企業で始めることができ、順調に育っている。

D コロナ禍が治まれば、先進地域研修や生態調査など、町民参加型の研修を充実して行きたいという会員の声上がり、河川財団で9人が研修できたことは次年度の活動計画づくりに有意義であった。環境保全の意味やその方法など、総会時の講演会（「川の歴史と文化」人数制限の中58名参加）は大成功であった。自然と生命、生きることと自然環境、行政との連携や取り組む会員の姿勢など、様々な点から示唆を受けることができた。

E 課題としてきた小・中学校への働きかけ（美化活動や調査活動への参加、活動の理解）が「ゆうすいの会」役員や高校生の授業参加をとおして大きく進んだ。今後、ポスターや研究作品の募集、ホタル育成に特化した活動への参加をすすめたい。

〔河川管理者等との連携状況〕

- 1 清流の国ぎふづくり糸貫川水環境対策検討会のメンバーとして、年1回（2月）その会合に出席し、河川美化運動の啓発について意見交流をしたり、他地域との連携を提示したりしてきた。一昨年度から文書による情報交流にとどまり、検討会は開かれていない。
- 2 岐阜県が進めている県リバーサポーター事業に参加し、北方清流平和公園と隣接の糸貫川美化を展開している。年間1～2回、河川現場で助言を受けている。また、県土木課の助言と参加のもと、北方町都市環境課とも連携して、清流平和公園の糸貫川の土砂の撤去を行ったり河川環境保全についての現場の課題を提示したりしている。
- 3 北方町都市環境課と連携して河川美化や諸行事を展開するとともに、河川で収集したごみや草、木材（伐採）の始末をお願いしている。役員例会は夜間であるが、職員1～2名がボランティアとして参加（毎回必ずではないが）されている。
- 4 県立岐阜農林高校の環境科学科や自然環境クラブと連携して糸貫川や天王川の環境美化活動（月1回）や生態調査（河川美化に続いて開催）を実施し、川を守り川に親しむ活動を展開してきた。また、岐阜農林高等学校の支援のもと、ホタルやカワニナの育成事業、河川環境の調査活動に取り組んでいる。

〔団体の会員数及び予算について〕

区 分	採択年度	2年目	3年目	4年目	5年目
会員数	当初18人 7月に高校生32人が参加した。	高校生が25人、正式会員として加入した。	30人程度（高校生の30名以上の加入）	50人程度（高校生の30名以上の加入）	70人以上（1～2年生50人）
予算 （単位：千円）	733 千円	650千円	650千円	600千円	600千円
当該助成金	50万円	50万円	50万円	50万円	50万円
割合（％）	68％	76％	76％	83％	83％

「今後の歩み、団体の将来展望について

「今後の歩み」

- 1 ホタルとカワニナの育成事業の推進と河づくりの取り組み
町のビオトープ整備についてはここ3年ほど断念せざるを得ない状況にあった。昨年度、藤山信州大教授による現地視察を経て、水が流れるようになればホタルの飼育施設として活用できるということが分かった。将来、工事をすすめ、町のビオトープにおける育成環境の確保を図るために、カワニナやホタルの幼虫の育成活動に岐阜農林高校で取り組んでいる。明治製菓でも工場内の水路や水槽を用いて育成活動を進めている。これはまた、ホタルが生息する糸貫川の環境づくりにも生きて働く情報を提供するものである。この成果を基に、糸貫川の環境保全・改善の活動（河川そのものの改修や改善活動等）を進め、そのうえでビオトープの再生、幼虫の放流を目指したい。
- 2 自然や河川保護の啓発
ほたる鑑賞会が中止（3年続き）であることを町の広報誌で紹介などしていただいていた。HP（大学生や高校生による作成）作成が徐々に進んでいることもあって、ふれあい祭におけるブースでの活動紹介を経て、河川保護や美化活動を多くの町民が知るところとなった。またその重要性が認識され、小・中学校における「ゆうすいの会」の活動紹介（糸貫川の河川環境の保全・ホタルの幼虫の育成・河川美化活動等）が「北方科」として授業カリキュラムに位置付くまでになった。こうした機会を得て若者に対する啓発を充実し、会員の拡大を図りたい。会員では、高校生会員が50名、若い役員が4名加わったことで、ふれあい祭への参加、カワニナやホタルの幼虫育成事業など、新しい活動が生まれた。
継続的な啓発事業（ポスターや標語募集・川に親しむ活動・写真展等）を工夫したい。
- 3 幅広い研修の実施
河川財団の研修を軸に、幅広い具体的な研修に取り組んでいきたい。

【団体の将来展望】

団体として、次のことを目指し、願っている。

- ① 会員に青年層を加え、継続的に河川環境の美化やホタル育成活動を町民、企業人、小中学生や高校生と共に一層充実する。また、生態調査や幼虫の育成事業をもとに、ホタル育成のための河川環境の保護改善に取り組む。
- ② 小中学生が参加する「川と親しむ会」を岐阜農林高校と連携して充実・継続する。
- ③ HPやふれあい祭などを通して、ゆうすいの会の活動についてさらに啓発に努める
- ④ 行政や町民、地元の企業と連携して活動を展開したり協力を得て必要なもの（新たなビデオづくりに関するもの）を購入したりするなど、地域に根付いた、長い見通しの下で多くの町民が参加継続する活動づくりを充実したい。
- ⑤ 近隣地区の環境保護団体と連携して共に活動したり、小中学校に働きかけたり（活動への参加、絵や標語、研究作品等の募集）して、啓発事業の充実を図っていききたい。

様式11-2

2. 川づくり団体部門（新設川づくり団体助成）

[自己評価シート2-2]

助成番号

助成事業名

2022-6322-014

糸貫川河川環境美化活動・ホタル育成活動

ゆうすいの会

会長 坂下 文雄

申請者 林 明夫

貴団体の助成期間終了時のイメージ

- ① ホタル観賞会に向けたカワニナやホタルの育成活動が定着し、ホタル観賞会が継続される。
- ② 高校生（岐阜農林高校）との連携のもと、河川の美化活動や環境保全活動、川に親しむ活動に取り組む会員や町民が大きく増加し、河川の環境保全が充実する。
- ③ これら①②の活動が充実継続するよう、HP更新や新聞・冊子の発行、標語や作品募集を行う。
- ④ 地域の要請に応じて、ゆうすいの会の成果を紹介するとともに、他地域団体と連携して活動を展開する。

年間の目標または重点課題

- ① 自生するホタルの育成を目指した研修（先進地区研修や大学専門家による研修会）
- ② 小学生等が水と親しむ活動を、カヌー等を用いて高校生と共に充実 新規加入会員の募集
- ③ 河川美化活動やホタル鑑賞会の発展的継続（ポスター募集・会員倍増）

1年目に得られた成果又は効果

1年目

- | | | | |
|---|---------------------|--|--|
| ① | ホタル育成の研修
川に親しむ活動 | 針生研修や講演会、河川財団研修
の実施で活動や意欲の充実 | 達成度及び次年度に向けた反省
・ホタルやカワニナ育成に特化した研修を実施したい
・継続したい |
| ② | 河川美化活動・会員倍増 | 年2回岐阜農林学校生徒と実施し、
100名以上小学生が参加
月1回の美化活動展開 | ・継続したい |
| ③ | ポスターや標語の募集 | 高校生がポスター図案を作成 | ・継続したい |

2年目

2年目に得られた成果又は効果

- | | | | |
|---|-------------------------------------|--|-----------------------------------|
| ① | 自生するホタルの育成を目指した研修（先進地区研修や専門家による研修会） | ホタルに関する講演会の実施 | 更に重視したい。ビオトープに代わる環境作りを検討したい |
| ② | 小学生等が水と親しむ活動を、高校生と共に充実 新規加入会員の募集 | 中池見湿地見学 河川財団研 | を更に重視したい |
| ③ | 河川美化活動やほたる鑑賞会の発展的継続（会員倍増） | 年2回岐阜農林学校生徒と実施、
100名以上小学生参加
月1回の美化活動展開 | 糸貫川、天王川双方で継続し、活動を紹介します資料作りを重視したい |
| ④ | ホタル育成のための研修
川に親しむ活動 | 月1回以上実施、会員が倍増 | 他地域と連携して継続し
ホームページを開設し、啓発に努めたい |

①
②
③
は
同
様

- | | | | |
|---|------------------------|---|--|
| ① | ホタル育成のための研修
川に親しむ活動 | ホタル育成の研修はコロナで中止
藤前干潟の環境保全研修
高校生が、生態調査のみ実施 | ホタル育成に直接かわる研修（具体策づくり）を総会等で実現したい。 |
| ② | 河川美化活動・会員倍増 | 年1回岐阜農林学校生徒と実施
月1回、高校生と美化活動展開
で、会員は30名 | 小学生親子が参加する川に親しむ活動を展開し、小中学生の会員を増やしたい |
| ③ | ポスターや標語の募集 | 高校生がデザインしたTシャツとブルゾンを着て、藤前研修に参加
毎月の河川美化活動の継続
環境美化にかかわる募集は、学校の要望で中止 | 夏休みの自由研究で、環境に関する作品があれば表彰し、一層の啓発に努めたい
HPの充実、内容の工夫を図る |

3年目

<p>①自生するホタルの育成を目指した研修 (先進地区研修や大学専門家による研 修会)</p>	<p>松本ホタル学会・藤山静雄氏の 講演会を実施した。当初はバスを チャーターして現場研修を計画し たが、コロナ禍・遠方ということ で、講演会に切り替えた。30名 を超す参加で、ホタル育成に関す る講話やビオトープ・河川の視察 等、大変効果的であった。</p>	<p>コロナ禍のため、時 期的な調整を図って講 演会を実施できたこと は大きな意義(ゆうす いの会の存在・他団体 や行政との連携・河川 環境やホタル育成の学 習)があった。今後 も、藤山氏との連携を 深め、また先進地域研 修も実施したい。</p>
<p>②小学生等が水と親しむ活動を、カヌー 等を用いて高校生と共に充実 新規加 入会員の募集</p>	<p>募集までは行えた(すぐに定員 50組が埋まる)が、コロナ禍に 関わる緊急事態宣言(岐阜県)の ため、2回の計画はすべて中止と なった。2年続きの中止は極めて 残念である。</p>	<p>実施継続したい。川 に親しみながらホタル 育成を訴えたり会員募 集をしたりする貴重な 機会、期待も大き い。</p>
<p>③河川美化活動やホタル鑑賞会の発展的 継続(ポスター募集・会員倍増・H P)</p>	<p>ホタル観賞会は2年続いて中止 となり、毎月の河川美化活動はH Pで紹介した。河川美化活動は4 月7月9月10月11月12月に とどまり、5・6・8月は中止～ 各自で時や場を決めて自主活動・ 活動月でも各自活動とした会員も 5～9名～となったが、参加者は 20名を超す規模を保持できた。 会員増加については、高校生が 30名を超す加入となった。 コロナ禍でポスターや標語の募 集を準備する活動が進められず、 次年度は準備を進めたい。</p>	<p>毎月1回の美化活動 を継続するとともに、 他団体と共に取り組む 形式で発展を図りた い。 5年度「北方科」の 教科書完成に合わせて、 小学校や中学校、 高等学校の負担になら ない形でポスターや標 語募集をすすめたい。 ・ホタル育成 ・河川美化 ・河川環境保護 ・水生生物保護等</p>
<p>*ビオトープの再生事業</p>	<p>ビオトープに水を流すことが可 能か、専門家に調査を依頼した。 再生可能であるも、予算的に間単 に対応できない(100万円は必 要)ため、再生事業を進める方法 を検討(県の補助事業への応募) したい。</p>	<p>ビオトープ再生事業 を継続したいが、客観 的な環境(費用と予 算・水確保の可能性) の第1次の無料調査が 終了。井戸を掘っても 水漏れや循環路の成否 は保証できないとのこ とで、費用は井戸掘り だけでも50万円は必 要とのこと。他に循環 路や循環モーター、池 底の整備などの費用が 必要とのこと。水道を 引きことも許可しない とのこと。</p>
<p>*河川財団の助成事業継続のお願い</p>	<p>5年間の河川財団助成事業が終了 した後も、河川財団からの支援を 何とかお願いできるよう働きかけ ていきたい。何とかしてビオトー プ再生事業をやりとげたい。</p>	

5
年
目

① 自生するホタルの育成を目指した研修（先進地区研修や大学専門家による研修会）

先進地区研修、河川環境保護や改善に関する研修として河川財団の研修会（2月4日、28日）に参加した。先進的な地域の活動がよくわかった。

参加 2月4日
高校生3 社会人1
教師 1
2月28日
役員 4

参加して大変参考になり、例会等で紹介・交流をおこなった。

次年度の活動計画づくりに大変参考になった。特に河川環境を改善やホタルやカワニナの幼虫育成、放流等について参考になった。

水生生物調査や水質調査、幼虫の育成活動をどのような規模や方向で進めるか今後検討をしていきたい。

5
年
目

② 小学生等が水と親しむ活動を、カヌー一等を用いて高校生と共に充実 新規加入会員の募集

水と親しむ活動は、5年計画の後半3年がコロナ禍で中止せざるを得なかった。一方で、小中学校の「北方科」のカリキュラムに「ゆうすいの会」の紹介が位置付き、広く認知されることになった。高校生や役員が授業で願いを語ったり活動を紹介したりすることで、活動意欲が増した。特に高校生はホタルの幼虫育成やふれあい祭参加を通して、会員数を増やした。（1, 2年生で50名）

水と親しむ活動が次年度は何とか行いたい。そこで「北方科」で学んだことを実際に体験し、河川環境の保全や改善に取り組む活動に参加する小中学生、若い世代の社会人を増やしていきたい。

高校生はほぼ同数で参加が続くと思われる。高等学校の支援や教師の理解と協力に感謝したい。

③河川美化活動やホタル鑑賞会の発展的継続（ポスター募集・会員倍増・HP）

河川美化活動では毎回20名以上の高校生が参加し、延べ人数は300名を超えている。保護者の方々の参加も増え、不定期ながら明治製菓職員の参加延べ人数も多い。（100名以上）

カワニナやホタルの育成活動を、岐阜農林高校ビオトープや水槽、明治製菓の水路や水槽で開始し、生育環境を研究している。この活動の成果を河川環境の改善に結びつけ、将来の放流事業の基礎になればと考えている。

岐阜農林高校ではカワニナやホタルの育成活動が継続され、3年生は2年生にバトンタッチしていく形式で、継続充実が図られている。

次年度はホタル観賞会の開催が3年ぶりにできそうであり、ポスター募集など、ホタルの飛び交う町づくりについて啓発事業を展開したい。

*ビオトープの再生事業

再生工事の効果が未定であること、ホタルに関わる糸貫川の環境保全や改善こそ重要であることから、一時、再生事業をストップしている。幼虫の育成事業や生態調査がもたらす成果もとに、どのような再生事業が必要かを生態系の視点から明らかにして、取り組んでいきたい。

北方町のビオトープの再生については、ホタルの幼虫育成事業をすすめ、その成果を得て考えていきたい。

令和4年度 ゆうすいの会 成果の報告書（別紙 写真活動報告を含む）

町民の成人会員が25名程で多くが70代以上であるとき、50名近い高校生の積極的な参加（岐阜農林高校の理解と協力）は勇気を与えてくれる。美化活動、ホタルやカワニナの幼虫の育成、生態調査などに大活躍である。また、明治製菓の社員の参加は新しい方向（地域のホタルやカワニナの採集と飼育、水質調査や地域連携の提案）を与えており、今後の展開を楽しみにしている。

また、継続的な河川美化活動は、収集ごみが200袋をこし、延べ参加人数も250人を超えるまでになってきた。町民の理解と支援、参加をさらに求めていきたい。

1 令和4年度第1回4月10日午前9時から北方町清流平和公園及びその西を流れる糸貫川の美化活動（ごみひろい・草刈り等）をはじめ、毎月1回人数を増やしながら年間を通して継続、企業の方々の参加

① 継続実施

岐阜農林高校の生徒への加入働きかけを2～3年生中心に昨年度から展開し、今までの活動の広がりもあって、4月22名の参加（主に2～3年生・1年生は5月以降の加入）を得た。コロナ禍で多くの活動（ゴムボートを用いた川遊び＜糸貫川・天王川＞や生態調査、ホタル観賞会）が中止となったが、加入会員は5月に50名ほどとなり、こうした活動は、毎月第2日曜に継続実施することができた。

・アピタ東の糸貫川 ・間長島公園東の糸貫川 ・清流平和公園西の糸貫川

② ごみ袋と参加者

数年前に比べて、ごみの量は減少しつつある。それでも、毎回15～20袋（年間200袋）くらいは集まり、缶や瓶等の不燃物も各3袋くらいになる。そうした中、参加の延べ人数は中止した月（8月）を考へても（個人的な参加も含める）、250人を超えてきたことは大きな成果だと考へる。高校生の参加は大きな支えである。5年4月2日の河川美化では、明治製菓の参加者が30人を超えた。

2 小学校や中学校、ふれあい祭りにおける「河川美化活動やホタル育成」の活動の紹介

① 学校で「ゆうすいの会」の紹介

北方小・北方西小・北方南小・北方中学校で「北方科」の授業の中に「ゆうすいの会」紹介が位置付き、小中学生に活動の様子やその大切さについて訴えることができた。こうした機会では、会員が直接、授業に参加し、資料を提供したり体験談を語ったりしている。ゆうすいの会に参加希望の中学生も生まれている。

② HPと「北方科」の教科書づくり

大学生によるHP運営や資料提供が進んでいる。岐阜農林高校生徒による河川調査や保護活動の研究などを生かしてHPの内容を工夫している。

昨年度、ゆうすいの会会員の高校生が北方町教育委員会の依頼を受けて「北方科」の教科書2ページ分を作成、今年度それが完成した。河川環境の保全や生態調査、ホタル育成など、ゆうすいの会の活動内容を2ペー提供している。これは、北方町が5年度に開校する「北方町立北学園・南学園（9年制の義務教育学校を2校）」で使用する教科書である。活動が認められた結果であり、広く認知されることが期待できる。

③ ふれあい祭りで発表

「北方町ふれあい祭」が3年ぶりに開催されたので、その一角のテントに紹介コーナーを設

けた。そこでは、岐阜農林生徒も30名程参加し、水生生物や河川環境、環境に関する課題などを町民に紹介した。反響は大きく、テントの中では最大の集客であった。200名を超すアンケートをいただき、300名を超す参観を得た。今後も、様々な機会を通して、河川美化、ホテル育成に関わる町民の関心がさらに高まるよう活動を展開し、会員の拡大につなげたい。さらに、昨年度依頼、卒業した「ゆうすいの会」の加入者の中の数名が新潟大学や岐阜大学の農学部へ推薦入学するなど、生徒の希望実現に向けたボランティア活動の提供が少しではあるができたのではないかと喜んでいる。

3 令和4年度研修会「日本の文化と川」朝日大学前教授「灰田 有」氏講演会 (58名参加)

ここ数年、残念ながら、先進地区見学研修会未定・総会で行う講演会の中止・ホテル観賞会中止・川と親しむ会（それいけ糸貫川・それいけ天王川）中止を決めなくてはならなかった。そうした中、何とか昨年につき、河川環境保護の重要性を日本文化とのかかわり（文明の発生から俳句の誕生と日本の文化的土壌）で学ぶ機会を作ることができた。高校生も30名程参加し、全体では50名という部屋限度数の方が集まり、熱心に学び合うことができた。

また、明治製菓の職員も2名参加され、会員として例会に出席したい旨が表明された。これをきっかけに、企業「明治製菓」との連携で、カワニナやホテルの幼虫の育成活動が始まった。

- ・講演会では多くの質問もあり、自然環境の重要性を具体的心情的に訴えるものとして感銘を受けたという感想を多くの会員から得た。

4 企業「明治製菓北方工場」との連携

北方町の「明治製菓」は以前から環境保全に取り組まれていて、今回、ゆうすいの会と具体的に連携して活動したいということで、次の内容を進めた。企業との連携は初めての試みで、有意義である。

- ① 地域に生育するカワニナやホテルの幼虫を採集して育成し、将来、糸貫川への放流を目指す。そこで、明治製菓の工場内水路における育成活動に着手し、継続中である。
- ② 幼虫の育成や特に河川の水質改善に関する先進的な取り組みや研究を学ばなくてはならないという提言をされ、ゆうすいの会の活動に新しい風を吹き込んでいる。その点で、岐阜大学との連携も深めている。
- ③ 河川の水質検査や向上に関わって、企業の持つネットワークや水質調査等のハウツーを提供され、ホテル育成に向けた活動を支援していただいている。
また、ゆうすいの会と共に多くの社員の方が河川美化活動に参集されている。
- ④ 明治製菓におけるカワニナやホテルの幼虫の育成と共に、岐阜農林高校でもビオトープや水槽で地元のカワニナやホテルの育成に取り組んでいる。自然界の100倍ほどの生存率が確認されている。

5 課題

- ・小・中学生や高校生の参加による河川調査・川と遊ぶ会はコロナ禍で中止となったが、とりわけ小学生親子からの希望は大きいものがある。こうした財産を失わないよう、積極的な働きかけを進めたい。
- ・町広報やHP作成、研修会、ポスターや高校生のTシャツ姿を通して町民の啓発に努め、本会の趣旨や活動が広く認知されるよう、今後も取り組みたい。いつ、どこで活動しているかも宣伝しながら、コロナ禍の治まりを祈りたい。

- ・天王川や糸貫川流域市町の活動団体と連携を深め、一斉に行う活動を計画したい。昨年度の講演者・藤山氏も重視されており、ここ3年、コロナ禍のため全くこうした活動が出来なかったことを受け、県の河川課や土木事務とも連携した会合（流域の一斉美化活動や自然環境保全の取り組み、とりわけ、河川水質の調査と改善の活動）の開催を働きかけて行きたい。そして、ホタル育成のために河川の水質改善に向けた取り組みを重視し、行政や他団体と協力して展開していけるよう工夫していきたい。
- ・次年度の高校生グループの3代目会長が北方町出身者で決まり、町民の会員拡大のよいきっかけになると考える。町民参加型の活動（河川美化・水質調査・川遊び・生態調査）を一層充実・実施し、会員加入を「ふれあい祭り」等でさらに働きかけたい。
- ・北方町浄水場の東を流れる天王川の河川改修工事が進んでいる。町民に親しまれる河川環境づくりは「ゆうすいの会」としても大歓迎で、「川と遊ぶ会」を実施してきた流域である。今後の活用を工夫したい。

図]

助成番号	助成事業名	所属・助成事業者氏名
2020-6321-005	糸貫川河川環境保護活動・ホタル育成活動	ゆうすいの会 会長 坂下 文雄 申請者 林 明夫
助成事業の主な実施箇所	主な実施箇所 北方町清流平和公園とその東隣を流れる糸貫川（河川美化や川に親しむ活動場所）	
	<div style="display: flex; align-items: center;">  <div style="margin-left: 20px; border: 1px solid black; padding: 10px;"> <p>← の場所が北方町清流平和公園とその西の糸貫川</p> <p>★ の場所がホタル観賞会（ホタル祭）を実施している間長島公園東の糸貫川</p> <p>⊕ の場所がアピタ東の糸貫川</p> <p>⊕ の場所が、北方町浄水場の東横の天王川</p> </div> </div>	
河川基金ロゴ等表示状況写真	岐阜農林生徒デザイン（間中島公園東の糸貫川） 遠景	看板のマーク 近景
		